

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 坂内 聖

| | | | | |
|-------|----|----|----|----|
| 審査担当者 | 主査 | 教授 | 大滝 | 純司 |
| | 副査 | 教授 | 玉腰 | 暁子 |
| | 副査 | 教授 | 荒戸 | 照世 |
| | 副査 | 教授 | 久住 | 一郎 |

学 位 論 文 題 名

長時間労働と健康に関する疫学研究

(The epidemiological studies of the association between long working hours and health)

申請者は長時間労働と健康の関連を検討した先行研究において、アウトカムが同じでも結論が一致しない場合がある理由として長時間労働の定義の違いとシフト勤務自体の健康悪影響に着目した。そこで、先行研究の選択基準を作成して系統的に検索し、長時間労働は冠動脈疾患、抑うつ状態、不安、睡眠の問題と関連があることを明らかにした。さらに日本の公立中学校教員を対象に、長時間労働と精神健康度低下および睡眠の問題との関連を横断的に検討した。研究デザインでは長時間労働を週当たり 40 時間超と設定し、シフト勤務者を除外した。その結果、男性では週当たり労働時間が 40 時間以内の者に比較して、60 時間を超えて働く者で精神健康度低下および睡眠の問題のリスクが有意に増加していた。一方で女性では有意な関連は見られなかった。

これらの結果に対し、審査担当者からは先行研究との結果の違いについて、**General Health Questionnaire-28** のうつ傾向の尺度と労働時間との関連について、週当たり労働時間がどの程度で健康に対し有意なリスクが出やすいと考えるか、長時間労働と健康の関連の男女別解析について、低い回収率のため回答者の偏りが存在したか、サンプリングの方法、本研究結果をどうかすか、自己申告による労働時間の妥当性などといった内容の質問や助言が出された。申請者はいずれの質問にも、概ね妥当に、また知見を用いて適切に回答した。助言された内容については、今後の課題として検討する姿勢を示した。

本学位論文の一部は既に英文学術雑誌に掲載されており、教員を対象に初めて長時間労働と精神健康度低下および睡眠の問題の関連を検討した研究として高く評価されている。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。